

8月のさろんテーマ

「雲仙へどうぞ」～地方創生を語る～

松下 隆（長崎県雲仙市政策企画課長補佐）



スローライフ学会の今年のフォーラムは、長崎県雲仙市で10月31日・11月1日開催と決定したのをうけての「さろん」。美しい雲仙、美味しい雲仙を知り、地元の方々と「地方創生」を語り合うフォーラムはいかに。市政策企画課松下さんにお話をいただいた。

■空港との距離がネック

西の果て長崎県の雲仙市から新幹線を乗り継いでやってきました。10月末～11月に開催される雲仙市の地方創生フォーラムに、ぜひ参加いただきたいからです。

雲仙市は長崎県東部の胃袋のような形の島原半島にあります。昭和9年に日本で最初の国立公園がつくられ、平成21年には日本最初のジオパークのひとつに島原半島が選ばれました。小浜温泉、雲仙温泉と泉質の違う温泉がある観光地ですが、観光客は最近減ってきています。

私は今回新幹線で来ましたが、長崎県に来る方はほとんど大村市の長崎空港を利用します。その多くは空港近くのハウステンボスに、その後産業遺産の軍艦島とかグラバー邸がある長崎市に行ってしまう、雲仙にこない。二つの温泉が空港から約1時間半かかることがネックのようです。

■合併は、市のいいものに気づく良い機会

平成17年、7つの町が合併して南北に細長い雲仙市ができました。どれも小さな町で、求心力を持つ町はありません。雲仙市には日本で最初がたくさんあります。雲仙国際ゴルフ場、雲仙観光ホテル、旧鉄道敷きの緑のトンネルの3つの近代化産業遺産があります。105メートルの足湯も日本一の長さで、珍しい指湯もあります。

ただ、温泉地には温泉しかなくてなにもすることがないという声もあり、最近になって小浜温泉の女将たちが女子力アップで、草木染、絵付け、蒸し釜体験、ちゃんぽん巡りなどの体験メニューができてきました。

問題は地元住民が地元の良さに気づいていない。いいものがあるけど、こんなのは当たり前だと思っている。7町合併は、それまで気づかなかった個別のまちの埋もれた資源を、こんないいもの、面白いものがあるじゃないと互いに発見するいいチャンスでした。今後はこの発見のスピードを加速していきたいと思っています。

■日本人の胃袋をまかせてほしい

市の東半分は平成3年に大爆発を起こし皆さんにご心配をかけた普賢岳などの山地です。山から有明海、橘湾の海までは10分ほどで行けて、海が近い。海と山の間は農地になっていて、お米の粒の大きさを揃えた棚田米や美味

しい野菜がとれます。肉牛も美味しく、かまぼこなどの海産物も絶品で、島原半島が胃袋の形をしているのは、日本人の胃袋を満たす美味しい資源をたくさん産出する胃袋なんだ、という宣伝をしています。

また山の気温は冷涼で、平地と10度以上の温度差があって、こうした条件を産物や観光に生かしたいと考えているところです。

■温泉熱発電にチャレンジ

小浜温泉の湯温は105度あります。これまでは自然を壊さず守ることが大きなテーマでしたが、これからはもっと活用することも考えた方がいいということで、国立公園の中であっても温泉熱発電に取り組もうという話が進んでいます。エネルギーの地産地消100%達成、電力購入費170億円の域内循環、環境配慮型ツアーづくりなどの話が各省庁、県、大学との間で検討されています。

■市民発の活動支援に、雲仙に来てください

さまざまな資源があり、温泉熱発電のような新しいことに挑戦している市ですが、合併時には人口5万人に2人足りない状況から、平成25年には4万5千人と減らしております。これには危機感を持っています。

雲仙市もご多分にもれず、ほとんどの事業は行政主導です。なかなか市民発の活動が出にくい面を持っています。その体質を変えたいのです。そこでぜひ皆さんに雲仙に来ていただきたい。ネットの時代になったとはいえ、市民が自分の言葉で話し、よそのみなさんと顔を見合わせて話し合ったことは、必ず心に響くし、届く。市への率直な感想を言っていただきたい。そして市民に失敗をしてもよいから、いろいろなことにチャレンジせよとあって、勇気を与えてもらいたい。それをスタートに、また財産にして地方創生をしたいと考えています。

【意見交換】

Q 普賢岳の現況はどうか。

A 火砕流発生から24年たった。まだ入山規制はあるが、入山範囲を広げる協議が始まったところ。被害を受けた島原市などの生活影響はなくなった。

Q 観光客の動向はどうなっているか？

A 火砕流前は雲仙観光客100万人と言われていたが半減した。噴火の影響だけでなく、最近の観光需要や修学旅行のスタイル変化に、観光関係者が追いついていない。また空港から直行の足がない問題がある。現在は国内ばかりでなく、海外からの観光客誘致に力を入れている。(2015年8月18日開催)